

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200825		
法人名	株式会社 富士見プロジェクト		
事業所名	グループホームさくら2号館		
所在地	静岡県清水区蒲原中302-1		
自己評価作成日	平成24年3月8日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200825&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200825&SC)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年3月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成22年8月2日に1階ユニットオープン、平成23年4月16日2階ユニットオープンの新しい施設です。JR蒲原駅から徒歩5分、国道1号線富士由比バイパス蒲原西出口からもほど近い場所にあります。海岸が近い為、日常的な散歩で海を見るのを楽しみにされている利用者様も多いです。地区の祭りの際には当ホームの駐車場にて踊りを披露して下さったり、定期的な地区の唱歌や踊りのボランティア様が来所して下さったりと、地域の方々に支えられています。医療面でも提携病院との連絡体制や受診支援等により、利用者様・御家族様に安心していただいています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

同法人3軒目の開設事業所であるため、これまでの建造物の改善点があったことに反映されてる点が先ず目を引く。特に洗面台やトイレなどの水回りの使い易さ、動線を考慮した居心地の良さが光る。収納エリアも効率よく配置されているため、共用スペースはすっきりとしていて5Sが行き届いている。本事業所のスタートにあたり、「地域との関係構築」「職員教育」に管理者は力を入れていて、前者は民生委員20名ほどが視察に訪れてもいる。後者については、職員会議内に勉強会の時間を設けたり、系列病院の研修や外部研修に職員を参加させ、管理者自ら交替するなど勤務シフトを工夫しより多くの機会を作ることに尽力している。その結果、職員の向上心も徐々に上がり、職員から「こういう研修に参加したい」との声がでるようになってきている。これらの取り組みの延長線として「事業所だより」の発行も今後の目標としている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念はつくり事務所内に掲示していますが、職員により意識の差があり共有について課題があります。	理念を反映した意識づけとして「忙しくとも利用者に忙しさを見せない介護」と、採用時のオリエンテーションから一貫して管理者は職員に伝えている。現在は安定しているが開設から今日にいたるまで職員の交替が続いたため、事業所としては「これから」という状況にある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し地域の祭りや清掃活動へ参加しています。日常的な挨拶の励行により地域の一人として交流しています。	開設当初から自治会や包括などへの挨拶まわりを重ね、地域行事にも意欲的に参加している。努力のかいあって、民生委員20名ほどが事業所へ視察に訪れるということもあった。散歩では近所の人たちと挨拶を交わし、花をもらうなどなじみの関係構築が叶っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加した際に地域の方々に、認知症に関する相談等随時受け付けている旨発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方々や御家族の意見を聞いてサービス向上の参考にしています。評価への取り組み状況等について、スタッフ会議で取り上げる事はありますが、運営推進会議ではまだ行なえていません。	地域との協力体制づくりは管理者が力を注ぐところではあるが、現在運営推進会議への地域住民の固定参加はない。「こんな役割をもってもらいたい」「こんなことを協力したい」と地域から言ってもらえる事業所を管理者は目指していて、本件への取り組み意識は高い。	「取り急ぎ形を整えていきたい」とのことなので、年間計画を立て定期開催ができるようになることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出の際の電話や郵送でのやり取りが多いです。それ以外での日常的な連携は不足しています。	現状は電話や郵送のやりとりのみで連携という段階までに至っていない。介護相談員の訪問もなく、市の制度や行事などに関わる機会も現在ない。本外部評価結果を直接届けることから始めたいと管理者は考えている。	まずは運営推進会議の案内と議事録を届けることを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行ない日中は玄関の施錠をしていません、身体拘束についてフォーラムへの参加や会議での啓発を通じて職員に指導しています。	管理者はことあるごとに「接客業」であることを職員に伝えている。身体拘束排除についての最低限の知識や技術は共有化できていて、「つい」「うっかり」のスピーチロック的な発言については管理者が都度注意している。職員は素直で柔軟な人ばかりであるため、注意を重ねることで前進できているという。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状態観察、異常の発見時の報告・記録を徹底し事業所内での虐待が見過ごされない様に、職員同士が声掛けあい注意を払ってます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員研修や認知症介護実践者研修等で個人的に学んでいる職員はいますが、全職員対象の学ぶ機会は持っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文章で説明は十分に行い理解・納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に関してはケアプラン説明時や電話連絡時や面会時等に意見・要望を伺っています。利用者に関しては管理者からの直接の聞き取りや、職員が要望を聞いた際の報告を通じ意見・要望を伺い必要に応じ運営に反映させています。	家族の面会は頻繁にあるため直接会話を持っている。面会の少ない家族には管理者が電話をして日頃の様子を伝えている。家族からは「職員の名前を覚えたいので何か工夫してほしい」といった具体的な要望が挙がっていて、案件については職員会議で話し合い改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談を通じて職員の意見や提案を聞いて、必要に応じて反映させています。	「職員の状態がよいことがケアのよさにつながる」と管理者は考えているため、職員の心身の状態に常に配慮している。年2回程度個人面談をおこなっているが、運営よりも人間関係に係る事柄が多く、浄化作用(ガス抜き)の場となっている。ただし、法人内異動での職員は意識が高く、建設的な意見が挙がるという。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を通じて、職員個々の実績や能力に応じた評価をして、向上心を持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修への参加を支援し、職員個々の意識や能力の向上を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加支援や関連施設でのイベント参加を通じ、同業者との交流を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に対する不安に配慮しながら、傾聴し少しでも早く安心して生活できるように全職員で意識しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時や見学時に良く話を聞いて、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時やアセスメント時に本人と家族の意向を良く聞き、当ホームの方針を説明し、他施設・他サービス利用も考慮して状況に応じた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によって意識の差はありますが、食事や家事を共に行ない、共生を意識しながら関係構築をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所として出来る事出来ない事、家族でなければ出来ない事等を入所前に説明し、家族と職員が共に本人を支えていけるようにしています。家族が気軽に面会に来れる雰囲気作りやイベントへの家族参加等で本人と家族の絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所しやすい様な雰囲気作りや散歩時、イベント時の地域の顔見知りとの交流を通じて、馴染みの関係を継続出来るように努めています。	水引き細工を教えていた利用者には生徒の訪問がある。作品をプレゼントしてもらうなどの関係が続いていて、またその作品はハレの日には共用空間に置かせてもらっている。かかりつけ医の待合室から不要になった雑誌を譲り受け、在宅時から続けて「文芸春秋」を愛読している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わりを持ちながら、孤立する事なく円滑に人間関係が築けるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じフォローに努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時思いや意向の把握に努めていますが、困難なケースが多いです。家族の意向を考慮しながらも本人本位になるように検討しています。	「マッサージを受けたい」「らっきょが食べたい」といった要望や意思の伝達が明瞭な利用者については、プランに反映させたり職員がすみやかに支援している。意向把握を高めることもねらいの一つとして利用者担当を決めたが、まだ具体的な動きはできていない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に極力把握出来るように努めています。他にも御家族や友人が面会に来られた際生活歴を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な記録・申し送りの他に状態変化の見られる方については、随時報告・連絡・相談を心がけています。申し送りノートやスタッフ会議での職員間での情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者や計画作成担当者が本人・家族の意見を伺った上で現状に即した計画を作成する事もあり、他職員の関わりは少なく、チームでのモニタリング・計画作成は今後の課題としてあります。	計画作成担当者とケアマネージャー(管理者兼務)が職員から聞きとりをしてモニタリングからプラン作成までを一元化している。今のところ家族からの意見・要望は特にはないが、職員にはプランへの参画を深めてもらいたいと考えていて、やり方を今後は替えていく予定でいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送りにて情報共有を行ない、計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族のニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握において不十分な面もあるので、今後地域資源の情報収集・活用をしていきたいと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿えるように支援しています。提携病院での受診を希望される場合も多く、付き添い介助をしています。	在宅からのかかりつけ医を変更することを勧めてはいない。もともと事業所の協力医がかかりつけ医という利用者が多く、また協力医には職員が付き添うこともあって協力医に変更するケースが多い。協力医は系列医療機関であることから家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康管理があります。他にも緊急時の対応指示を仰いだり、報告・連絡・相談を行ない看護師と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も連絡をとり状態把握に努め、入退院時の連携がスムーズに行えるように、情報交換や相談等病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の対応について話し、事業所として出来る事・出来ない事を説明し同意を得ています。	契約時に事業所では看取りはおこなわないことは理解してもらっていて、家族と合意形成できている。重度化となる前の段階で家族と話し合う機会をもち、医療機関を紹介するなどの支援をする予定でいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の際、消防署員に指導に来て頂いています。今後は全職員消防署で普通救命講習を受講予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の事業所での防災訓練の他に、地区での防災訓練に参加しています。夜間の訓練は現在行なえていません。	年2回の事業所内訓練に取り組むほか、地域の防災訓練にも参加している。また、津波対策についても消防署からアドバイスや意見をもらっていて、地域の皆さんからも協力するとの声をもらっている。今月には全職員が参加する救命救急講習が予定されている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を指導していますが、言葉遣いが気になる職員もいます。	「想像力を働かせてください」ということを管理者は常々職員に話していて、カーテンやドアの開閉や排泄の業務連絡などの場面において特に注意を促している。どの職員もゆったり穏やかな対応が身につけていて、「尊重する」ということは体現できていることが覗えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表現しやすい雰囲気作りをして、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的なスケジュールはありますが、利用者個々の体調や気分、状況に応じて個別支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら好みの服を着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方は調理準備関わっていただく事もあります。職員と利用者が一緒に食べながら、楽しく安全に食事出来るように配慮しています。	法人本部で栄養士がメニューを策定している。職員の手作りのメニューで共に食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事ができている。食事前には嚥下体操をして飲みこみがよくなる支援にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列病院の管理栄養士が献立を作成しています。食事量や水分量はチェック表で管理し過不足ない様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして、清潔保持に留意しています。洗浄剤による夜間の義歯洗浄も行なっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、日中はトイレで排泄出来るように支援しています。	消耗品は各居室に置かれ、また掃除用具も別に保管していて、トイレにはトイレットペーパー以外一切なく、また清潔に保たれている。排泄パターンを把握してタイミングのよい誘導に努めていて、オムツから改善向上して今では車椅子自走でトイレに行く利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、適度な運動をしてもらい便秘予防に努めています。必要に応じ主治医・看護師に相談して薬の調節、食事形態の変更等個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決まっているが、本人の希望や外出の予定等により、臨機応変な対応は可能。利用者のタイミングに合わせて入浴順や時間は適宜変更しています。	1階、2階双方日曜日以外の月～土で湯をはっている。体調や肌の状態が良好であれば希望により毎日入れるが、夜間対応は難しい。汚染があれば入れ替えをするが、追い焚き機能がないこともあり、基本はかけ流しとしている。1対1の介助を基本として安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況に応じて、居心地の良い場所で休息出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み内服薬について理解する様に努めています。薬の変更があった際には申し送りノートで全職員が情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇の水やり、床のモップ掛けや洗濯物たたみ等の本人の力を活かした役割をもって頂き、やりがいや喜びを感じていただける様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	良い天気時には散歩や外気浴を楽しんでいただいています。普段行けないような場所へは家族に協力をお願いしています。今後、事業所として個別の外出支援を増やしていきたいです。	軽自動車1台のため全員一斉にはできないが、日や時間帯を分けてドライブや買い物に出掛けられている。地区の盆踊りや花見など季節を感じてもらえる外出支援も取り組んでいる。	個別外出を実現させたいとのことであるので、「バースディ外出」などで実現性を高めていくことを期待する。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行なっていますが、本人の希望に応じて買い物に出掛け自力で支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で広く開放的な共用空間で、思い思いに居心地よく過ごせるように配慮しています。室温・湿度の管理にも気を配っています。	ソファが2つあり、テーブル・椅子と配置し、居場所が出来るよう配慮されている。家族や近隣の皆さんから生花をもらえたり、利用者が散歩で摘んでくる野花も飾るといふ。絵画などのインテリアに趣きがあり、利用者と職員の穏やかな雰囲気を反映している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り新聞・雑誌を見たり、談笑されたり自席で過ごしたり、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はあるが、本人や家族と相談しながら、必要ない物は撤去し、持ち込みも自由に行なって頂き、本人が過ごしやすい環境にしています。	ベッド、エアコン、チェスト、サイドテーブル、鏡、テーブル、椅子、カーテン、絵画と備え付けのインテリア家具が豊富に用意されている。同じ家具を使っても配置や使い方が異なり、ここでのなじみの空間ができていることが覗える。化粧品道具を持ち込んでいる利用者もいて、事業所の備えた鏡が意欲を促進しているように受けとめられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりが設置されており、安全に歩行出来る様にしています。ネームプレートを本人の目線の高さに合わせたり、分かりやすい表示を心がけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念はつくり事務所内に掲示していますが、職員により意識の差があり共有について課題があります。	理念を反映した意識づけとして「忙しくとも利用者に忙しさを見せない介護」と、採用時のオリエンテーションから一貫して管理者は職員に伝えている。現在は安定しているが開設から今日にいたるまで職員の交替が続いたため、事業所としては「これから」という状況にある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し地域の祭りや清掃活動へ参加しています。日常的な挨拶の励行により地域の一人として交流しています。	開設当初から自治会や包括などへの挨拶まわりを重ね、地域行事にも意欲的に参加している。努力のかいあって、民生委員20名ほどが事業所へ視察に訪れるということもあった。散歩では近所の人たちと挨拶を交わし、花をもらうなどなじみの関係構築が叶っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加した際に地域の方々に、認知症に関する相談等随時受け付けている旨発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方々や御家族の意見を聞いてサービス向上の参考にしています。評価への取り組み状況等について、スタッフ会議で取り上げる事はありますが、運営推進会議ではまだ行なえていません。	地域との協力体制づくりは管理者が力を注ぐところではあるが、現在運営推進会議への地域住民の固定参加はない。「こんな役割をもってもらいたい」「こんなことを協力したい」と地域から言ってもらえる事業所を管理者は目指していて、本件への取り組み意識は高い。	「取り急ぎ形を整えていきたい」とのことなので、年間計画を立て定期開催ができるようになることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出の際の電話や郵送でのやり取りが多いです。それ以外での日常的な連携は不足しています。	現状は電話や郵送のやりとりのみで連携という段階までに至っていない。介護相談員の訪問もなく、市の制度や行事などに関わる機会も現在ない。本外部評価結果を直接届けることから始めたいと管理者は考えている。	まずは運営推進会議の案内と議事録を届けることを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行ない日中は玄関の施錠をしていません、身体拘束についてフォーラムへの参加や会議での啓発を通じて職員に指導しています。	管理者はことあるごとに「接客業」であることを職員に伝えている。身体拘束排除についての最低限の知識や技術は共有化できていて、「つい」「うっかり」のスピーチロック的な発言については管理者が都度注意している。職員は素直で柔軟な人ばかりであるため、注意を重ねることで前進できているという。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状態観察、異常の発見時の報告・記録を徹底し事業所内での虐待が見過ごされない様に、職員同士が声掛けあい注意を払ってます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員研修や認知症介護実践者研修等で個人的に学んでいる職員はいますが、全職員対象の学ぶ機会は持っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文章で説明は十分に行い理解・納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に関してはケアプラン説明時や電話連絡時や面会時等に意見・要望を伺っています。利用者に関しては管理者からの直接の聞き取りや、職員が要望を聞いた際の報告を通じ意見・要望を伺い必要に応じ運営に反映させています。	家族の面会は頻繁にあるため直接会話を持っている。面会の少ない家族には管理者が電話をして日頃の様子を伝えている。家族からは「職員の名前を覚えたいので何か工夫してほしい」といった具体的な要望が挙がっていて、案件については職員会議で話し合い改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談を通じて職員の意見や提案を聞いて、必要に応じて反映させています。	「職員の状態がよいことがケアのよさにつながる」と管理者は考えているため、職員の心身の状態に常に配慮している。年2回程度個人面談をおこなっているが、運営よりも人間関係に係る事柄が多く、浄化作用(ガス抜き)の場となっている。ただし、法人内異動での職員は意識が高く、建設的な意見が挙がるという。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を通じて、職員個々の実績や能力に応じた評価をして、向上心を持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修への参加を支援し、職員個々の意識や能力の向上を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加支援や関連施設でのイベント参加を通じ、同業者との交流を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に対する不安に配慮しながら、傾聴し少しでも早く安心して生活できるように全職員で意識しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時や見学時に良く話を聞いて、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時やアセスメント時に本人と家族の意向を良く聞き、当ホームの方針を説明し、他施設・他サービス利用も考慮して状況に応じた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によって意識の差はありますが、食事や家事を共に行ない、共生を意識しながら関係構築をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所として出来る事出来ない事、家族でなければ出来ない事等を入所前に説明し、家族と職員が共に本人を支えていけるようにしています。家族が気軽に面会に来れる雰囲気作りやイベントへの家族参加等で本人と家族の絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所しやすい様な雰囲気作りや散歩時、イベント時の地域の顔見知りとの交流を通じて、馴染みの関係を継続出来るように努めています。	水引き細工を教えていた利用者には生徒の訪問がある。作品をプレゼントしてもらうなどの関係が続いていて、またその作品はハレの日には共用空間に置かせてもらっている。かかりつけ医の待合室から不要になった雑誌を譲り受け、在宅時から続けて「文芸春秋」を愛読している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わりを持ちながら、孤立する事なく円滑に人間関係が築けるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じフォローに努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時思いや意向の把握に努めていますが、困難なケースが多いです。家族の意向を考慮しながらも本人本位になるように検討しています。	「マッサージを受けたい」「らっきょが食べたい」といった要望や意思の伝達が明瞭な利用者については、プランに反映させたり職員がすみやかに支援している。意向把握を高めることもねらいの一つとして利用者担当を決めたが、まだ具体的な動きはできていない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に極力把握出来るように努めています。他にも御家族や友人が面会に来られた際生活歴を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な記録・申し送りの他に状態変化の見られる方については、随時報告・連絡・相談を心がけています。申し送りノートやスタッフ会議での職員間での情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者や計画作成担当者が本人・家族の意見を伺った上で現状に即した計画を作成する事もあり、他職員の関わりは少なく、チームでのモニタリング・計画作成は今後の課題としてあります。	計画作成担当者とケアマネージャー(管理者兼務)が職員から聞きとりをしてモニタリングからプラン作成までを一元化している。今のところ家族からの意見・要望は特にはないが、職員にはプランへの参画を深めてもらいたいと考えていて、やり方を今後は替えていく予定でいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送りにて情報共有を行ない、計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族のニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握において不十分な面もあるので、今後地域資源の情報収集・活用をしていきたいと思ひます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿えるように支援しています。提携病院での受診を希望される場合も多く、付き添い介助をしています。	在宅からのかかりつけ医を変更することを勧めてはない。もともと事業所の協力医がかかりつけ医という利用者が多く、また協力医には職員が付き添うこともあつて協力医に変更するケースが多い。協力医は系列医療機関であることから家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康管理があります。他にも緊急時の対応指示を仰いだり、報告・連絡・相談を行ない看護師と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も連絡をとり状態把握に努め、入退院時の連携がスムーズに行えるように、情報交換や相談等病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の対応について話し、事業所として出来る事・出来ない事を説明し同意を得ています。	契約時に事業所では看取りはおこなわないことは理解してもらっていて、家族と合意形成できている。重度化となる前の段階で家族と話し合う機会をもち、医療機関を紹介するなどの支援をする予定でいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の際、消防署員に指導に来て頂いています。今後は全職員消防署で普通救命講習を受講予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の事業所での防災訓練の他に、地区での防災訓練に参加しています。夜間の訓練は現在行なえていません。	年2回の事業所内訓練に取り組むほか、地域の防災訓練にも参加している。また、津波対策についても消防署からアドバイスや意見を頂いて、地域の皆さんからも協力するとの声をもらっている。今月には全職員が参加する救命救急講習が予定されている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を指導していますが、言葉遣いが気になる職員もいます。	「想像力を働かせてください」ということを管理者は常々職員に話していて、カーテンやドアの開閉や排泄の業務連絡などの場面において特に注意を促している。どの職員もゆったり穏やかな対応が身につけていて、「尊重する」ということは体現できていることが覗えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表現しやすい雰囲気作りをして、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的なスケジュールはありますが、利用者個々の体調や気分、状況に応じて個別支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら好みの服を着ていただいています。女性利用者の中にはマニキュアを塗ったり、メイクをしたりおしゃれを楽しんでおられる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の役割として片付けをする方もいます。可能な方は調理準備関わっていただく事もあります。職員と利用者が一緒に食べながら、楽しく安全に食事出来るように配慮しています。	法人本部で栄養士がメニューを策定している。職員の手作りのメニューで共に食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事ができている。食事前には嚥下体操をして飲みこみがよくなる支援にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列病院の管理栄養士が献立を作成しています。食事量や水分量はチェック表で管理し過不足ない様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして、清潔保持に留意しています。洗浄剤による夜間の義歯洗浄も行なっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、日中はトイレで排泄出来るように支援しています。	消耗品は各居室に置かれ、また掃除用具も別に保管していて、トイレにはトイレットペーパー以外一切なく、また清潔に保たれている。排泄パターンを把握してタイミングのよい誘導に努めていて、オムツから改善向上して今では車椅子自走でトイレに行く利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、適度な運動をしてもらい便秘予防に努めています。必要に応じ主治医・看護師に相談して薬の調節、食事形態の変更等個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決まっているが、本人の希望や外出の予定等により、臨機応変な対応は可能。利用者のタイミングに合わせて入浴順や時間は適宜変更しています。	1階、2階双方日曜日以外の月～土で湯をはっている。体調や肌の状態が良好であれば希望により毎日入れるが、夜間対応は難しい。汚染があれば入れ替えをするが、追い焚き機能がないこともあり、基本はかけ流しとしている。1対1の介助を基本として安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況に応じて、居心地の良い場所で休息出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み内服薬について理解する様に努めています。薬の変更があった際には申し送りノートで全職員が情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇の水やり、床のモップ掛けや洗濯物たたみ等の本人の力を活かした役割をもって頂き、やりがいや喜びを感じていただける様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	良い天気時には散歩や外気浴を楽しんでいただいています。普段行けないような場所へは家族に協力をお願いしています。今後、事業所として個別の外出支援を増やしていきたいです。	軽自動車1台のため全員一斉にはできないが、日や時間帯を分けてドライブや買い物に出掛けられている。地区の盆踊りや花見など季節を感じてもらえる外出支援も取り組んでいる。	個別外出を実現させたいとのことであるので、「バースディ外出」などで実現性を高めていくことを期待する。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行なっていますが、本人の希望に応じて買い物に出掛け自力で支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で広く開放的な共用空間で、思い思いに居心地よく過ごせるように配慮しています。室温・湿度の管理にも気を配っています。	ソファが2つあり、テーブル・椅子と配置し、居場所がつかれるよう配慮されている。家族や近隣の皆さんから生花をもらえたり、利用者が散歩で摘んでくる野花も飾るとい。絵画などのインテリアに趣きがあり、利用者や職員の穏やかな雰囲気を反映している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り新聞・雑誌を見たり、談笑されたり自席で過ごしたり、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はあるが、本人や家族と相談しながら、必要ない物は撤去し、持ち込みも自由に行なって頂き、本人が過ごしやすい環境にしています。	ベッド、エアコン、チェスト、サイドテーブル、鏡、テーブル、椅子、カーテン、絵画と備え付けのインテリア家具が豊富に用意されている。同じ家具を使っても配置や使い方が異なり、ここでのなじみの空間ができていることが覗える。化粧品道具を持ち込んでいる利用者もいて、事業所の備えた鏡が意欲を促進しているように受けとめられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりが設置されており、安全に歩行出来る様にしています。ネームプレートを本人の目線の高さに合わせたり、分かりやすい表示を心がけています。		